

『別れ話』 作…ポチ子

雄二 「なんだよ、話って」

みのり 「・・・別れてほしいの」

雄二 「え・・・」

みのり 「別れてほしいの」

雄二 「お、おい、いきなりなんだよ・・・。あ！あれだろ、この前の記念日、俺がレストラン予約するの忘れて、ファミレスで飯食うことになったのまだ怒ってんだろ？悪かったって」

みのり 「好きな人ができたの」

雄二 「・・・どうということだよ、好きな人ができたって」

みのり 「とっっても素敵な人よ」

雄二 「すてき・・・どうしてだよ、俺たちうまくいったじゃん！」

みのり 「ごめんなさい」

雄二 「俺よりも、そいつの方がいいっていうのかよ。」

みのり 「そうよ」

雄二 「・・・何が悪かったんだ？俺、直すからさ。教えてくれよ、何が悪かったんだ？」

みのり 「顔よ」

雄二「は？」

みのり「あなたって、餌付けされてる時の鯉みたいな顔してるじゃない？新しい彼は吉沢亮に似てるの。だから、別れてほしいの」

雄二「いやいや。急に悪口・・・え、今までずっとそう思ってたの？」

みのり「ええ」

雄二「ええ・・・。なんだよ、鯉みたいな顔って。吉沢亮に似てるやつを好きになったから別れてくれって、お前、最低だな！！」

みのり「なんて、嘘。お母さんが病気でね、地元に戻って看病しなくちゃならなくなったの」

雄二「お母さんが？」

みのり「だから、500万貸してくれないかな？」

雄二「おう、分かった。ってなるかあ！！お前の地元ここじゃねか！お母さんもピンピンしてるだろ！！なに、そのお金で、吉沢亮と派手な結婚式でもあげるってか？」

みのり「（口笛を吹く）」

雄二「ごまかし下手か。ほんと最低だな！！」

みのり「でも、今まであなたのことが好きだったのは本当よ？」

雄二「みのり・・・」

みのり「お金があるところとか、後ろ姿が山崎賢人っぽいとか・・・」

雄二「別れよう」

— 終わり —